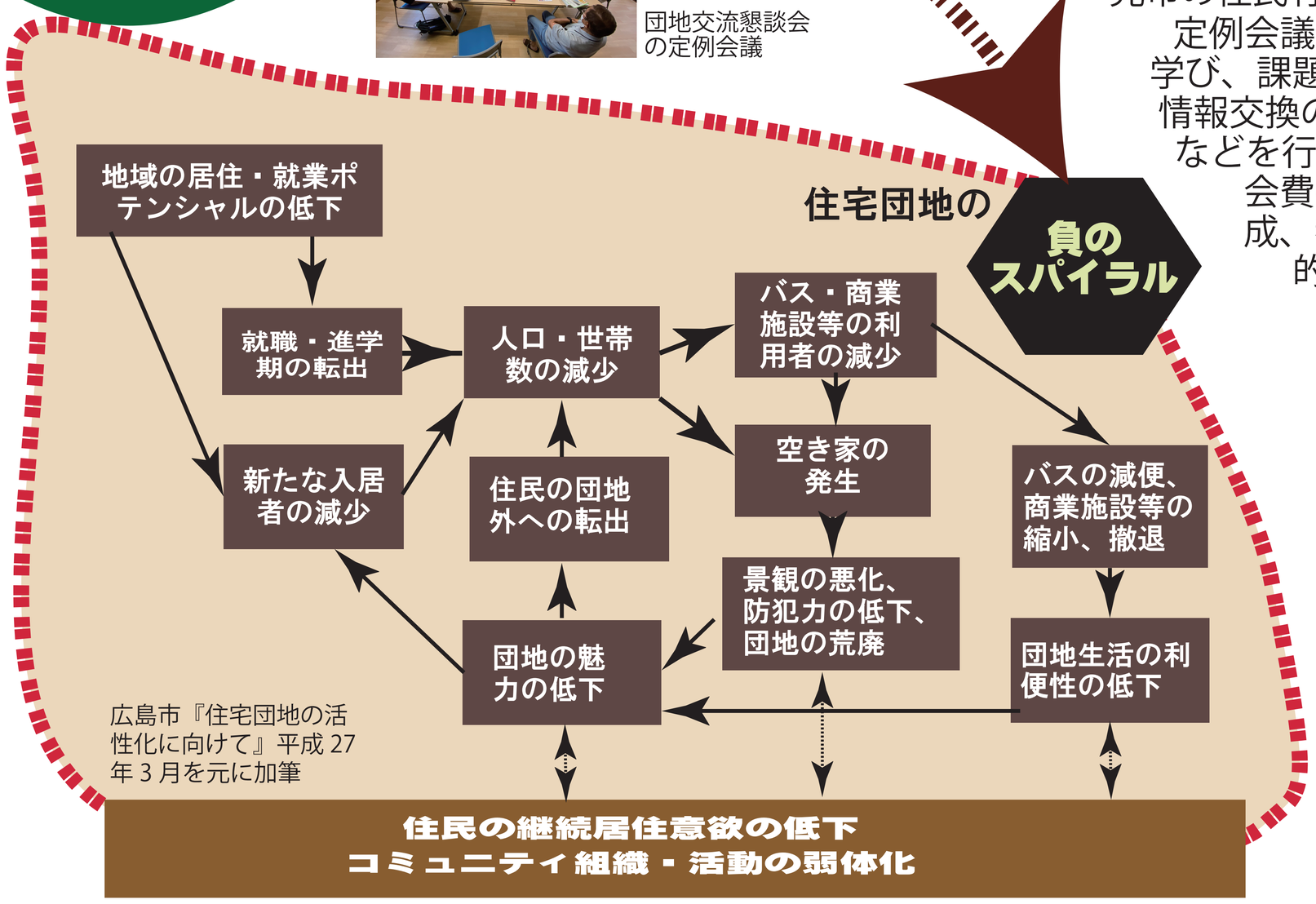
団地交流懇談会　岐阜県可児市

負のスパイラルを逆転する取り組みを！

団地交流懇談会の定例会議



広島市『住宅団地の活性化に向けて』平成27年3月を元に加筆

団地交流懇談会は、団地のまちづくり活動の交流に加えて団地の今とこれからの状況を調べて学び、住み続けられる住宅地のあり方を考えようと、2018年に始めた可児市の住民有志による任意組織。

定例会議（年間約10回）で住民活動の交流、学び、課題や将来のあり方などの意見交換、情報交換の他、調査活動、見学会、講演会などを行っています。

会費の他、可児市まちづくり活動助成、都市住宅学会中部支部の財政的支援を得て活動しています。

＜会の活動＞

定例の運営会議のほか下記

2019年

見学会（高蔵寺NTぶらぶらまつり，岐阜市芥見東団地）、講演会・セミナー：住み続けられる団地に向けて一広島と可児のまちづくり交流会

2020年

移動支援活動調査一可児市・美濃加茂市・東浦町、地域公共交通の学習

2021年

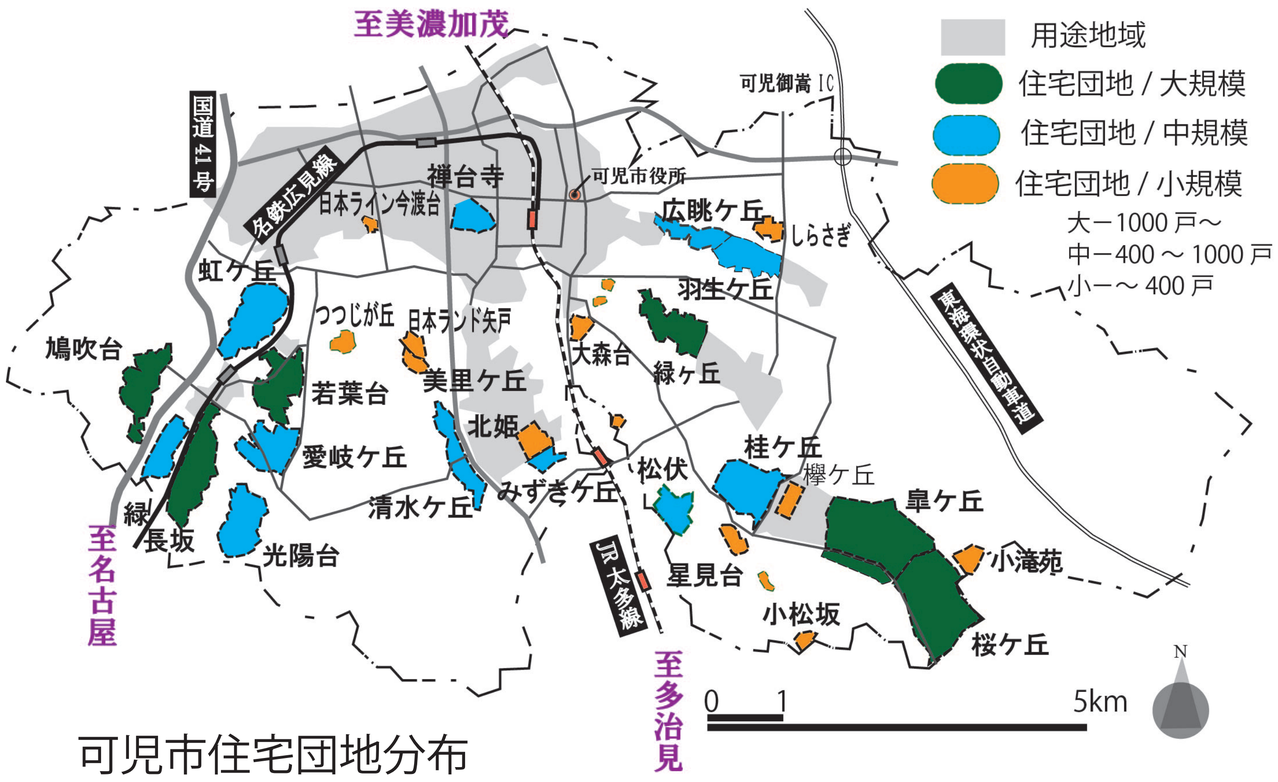
リモートワーカー調査、空き地・空き家調査、見学会（各務原市八木山団地）、講演会「令和の住宅団地一郊外生活の現在と行く末」、調査協力（新規入居者調査・若葉台、コミュニティ活動調査・数団地）

2022年

見学会（高蔵寺NT）、調査協力（桂ケ丘ポケットパーク利用実態）

2023年

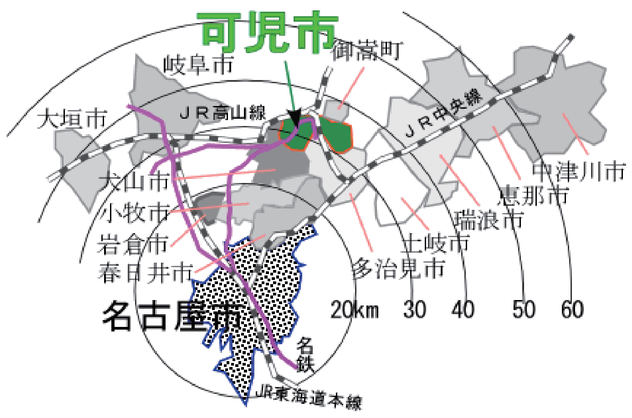
市役所との意見交換、団地自治会調査

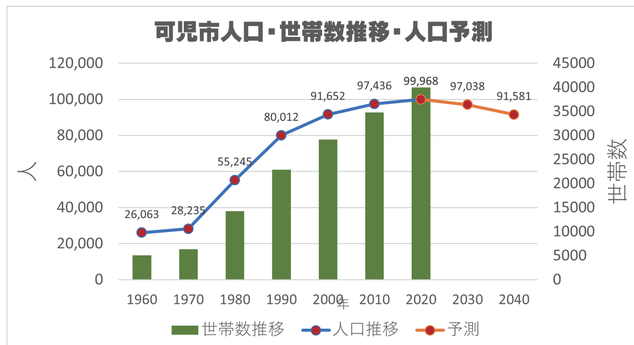


可児市住宅団地分布

名古屋都市圏郊外30km圏に位置する可児市は、郊外通勤者のベッドタウンとして、また県内最大規模の工業団地も立地しており、1970年代に民間デベロッパーによって多くの戸建て住宅団地が丘陵地に開発され、人口急増した10万人都市。将来人口は減少が予測されている。また、外国籍人口も約8千人と多いのも特徴となっている。

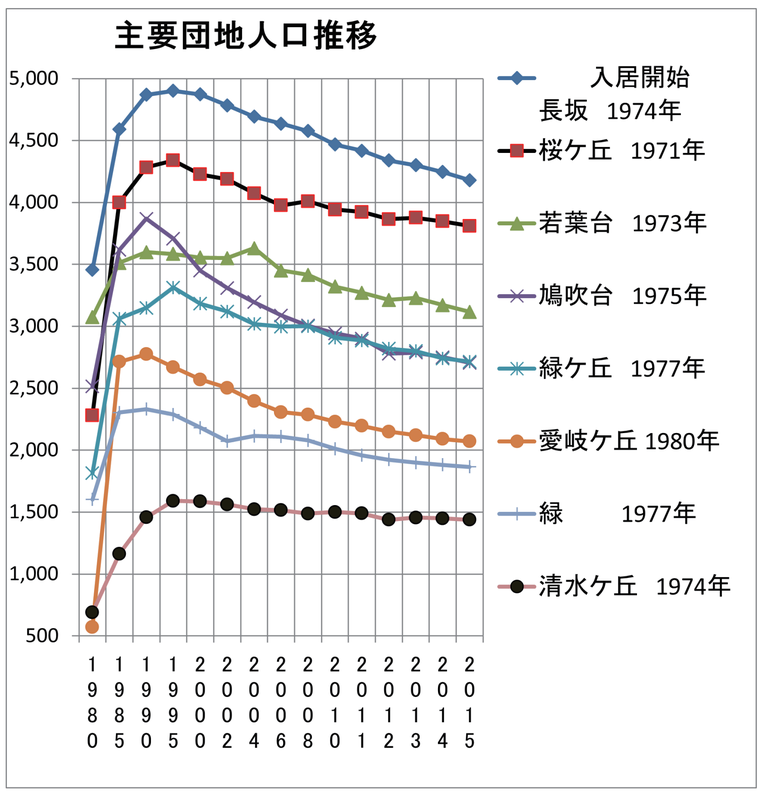
入居戸数200戸以上の団地が18あり、市民の約40%が住宅団地に居住している。多くの団地では人口減少と高齢化が進行しているが、さまざまなまちづくり活動も活発に取り組まれている。

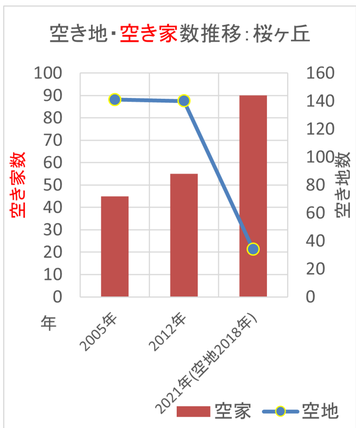


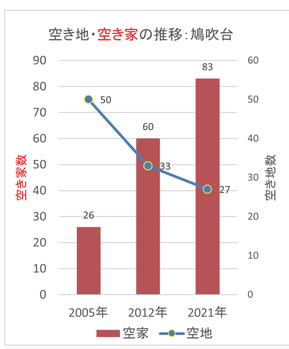


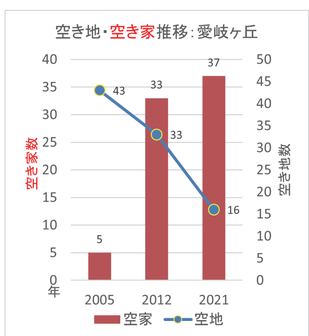
＜地域変化＞

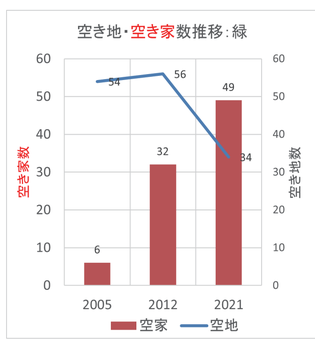
1970年代に入居が始まった可児市の住宅団地は、子供世代の転出によって、人口減少と高齢化が進んでいる。最も高齢化率が高い団地は愛岐ヶ丘49.3%、後期高齢者率の高いのは若葉台25.4%（2020年4月）。一方で、郊外団地としての特性にも変化が見られる。近居（子供世代の転入）、近隣地域就業者の増加、外国人居住者の増加など。ほとんどが戸建て専用住宅地となっているが、その立地条件や団地規模などによって、変化にも違いが見られる。

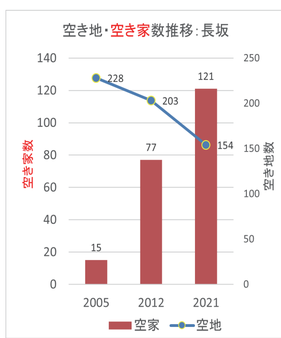












＜空き地・空き家調査　2021年＞

7団地を調査。平均空き地率4.4%(10.0～0.8%)、平均空き家率5.6%(7.0～0.7%)。経年変化がわかる6団地では、全て、空き地が減少し、空き家が増加している。空き地の減少は新築ニーズがあることと、空き宅地での新築余地が少なくなることを意味している。空き家は新規入居者の受け皿になり得る資源であるが、リノベーションや建て替え更新などの方策も新規入居者を迎えるには必要と考えられる。

データ：2005年／都市住宅学会中部支部、2012年／名城大学海道研究室、2021年／団地交流懇談会

空き家率＝全住宅に対しての比率

空き家率	桜ケ丘	愛岐ケ丘	若葉台	緑	長坂	鳩吹台
2005年	3.0%	0.6%	2.1%	0.8%	0.9%	2.3%
2012年	3.7%	4.0%	4.7%	4.4%	4.8%	5.2%
2021年	5.6%	4.5%	6.5%	6.9%	7.6%	7.2%

https://kanidanchi.web.fc2.com/

団地交流懇談会　岐阜県可児市

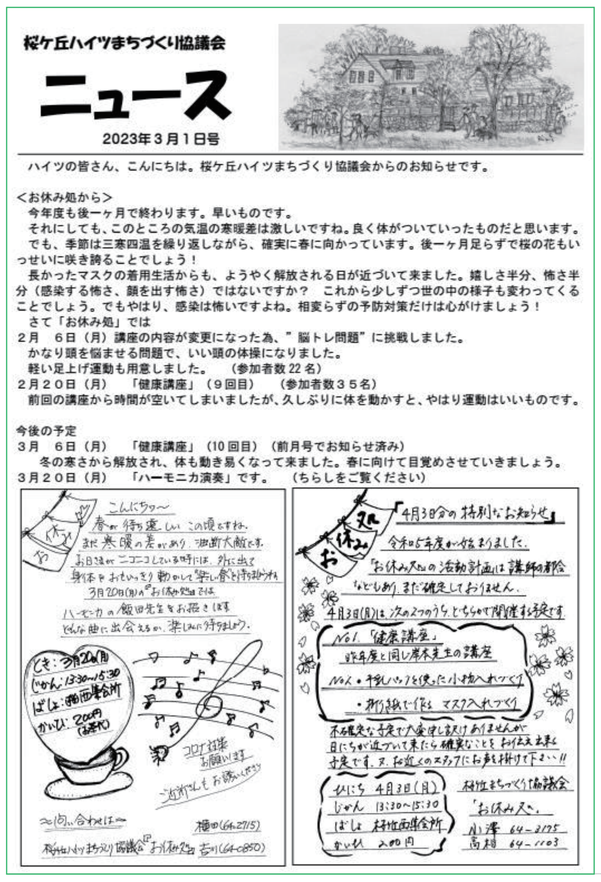
2

可児市住宅団地のまちづくり活動（例）

●若葉台高齢福祉連合会／「アッシーくん」

●桜ケ丘ハイツまちづくり協議会「お休み処」

●光陽台陽だまりの会「陽だまりサロン」



桜ケ丘ハイツまちづくり協議会

ニュース

2023年3月1日号

ハイツの皆さん、こんにちは。桜ケ丘ハイツまちづくり協議会からのお知らせです。

<お休み処から>
今年度も後一ヶ月で終わります。早いものです。
それにしても、このところの気温の寒暖差は激しいですね。良く体がついていったものだと思います。
でも、季節は三寒四温を繰り返しながら、確実に春に向かっています。後一ヶ月足らずで桜の花もいっせいに咲き誇ることでしょう！
長かったマスクの着用生活からも、ようやく解放される日が近づいて来ました。嬉しさ半分、怖さ半分（感染する怖さ、顔を出す怖さ）ではないですか？　これから少しずつ世の中の様子も変わってくることでしょう。でもやはり、感染は怖いですよね。相変らずの予防対策だけは心がけましょう！
さて「お休み処」では
2月　6日（月）講座の内容が変更になった為、”脳トレ問題”に挑戦しました。
かなり頭を悩ませる問題で、いい頭の体操になりました。
軽い足上げ運動も用意しました。　（参加者数 22 名）
2月２０日（月）　「健康講座」（９回目）　（参加者数３５名）
前回の講座から時間が空いてしまいましたが、久しぶりに体を動かすと、やはり運動はいいものです。

今後の予定
3月　6日（月）　「健康講座」（10 回目）（前月号でお知らせ済み）
冬の寒さから解放され、体も動き易くなって来ました。春に向けて目覚めさせていきましょう。
3月２０日（月）　「ハーモニカ演奏」です。　（ちらしをご覧ください）

第2回 光陽台 ママママ まつり　10月28日 12時～16時

ぷらぷらして、ラブラブのまちに

光陽台集会所にて　手づくり作品展開催

スタンプラリー

金券 100円

主催：光陽台 陽だまりの会　可児市支え合い活動登録団体
後援：光陽台自治会

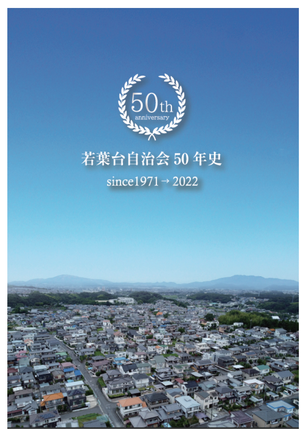
＜愛岐ケ丘自治会＞

地域の高齢者が住み慣れた地域で継続的に安心して生活ができるように、営利を目的としない高齢者の日常生活支援や介護予防などに寄与する自主的な活動として、「可児市地域支え合い活動助成金制度」に規定された活動を実施

1．　サロン運営：場所　ふれあいセンター
・支え愛の会　平日 10 時～ 12 時　　13 時～ 15 時 30 分
・集いの会 " 笑顔 "　毎週火曜日　10 時～ 11 時 30 分
・木曜ひろば　第 2・第 4 木曜日　10 時～ 12 時　13 時～ 16 時
2. 生活支援
買い物代行、家具移動、ゴミ出し支援など日常生活のちょっとした困りごとの手助け
3.　安否確認、見守り活動
安心して暮らせるよう、日常的な見守り活動や安否確認

＜若葉台自治会＞

1. 駐車場管理組合
空き地を自治会が借り上げ、駐車場として貸し出す。18 カ所（令和 4 年 10 月）
2. 空き地除草管理組合
3. 高齢福祉連合会：
　2012 年設立、会員約 100 名 / 自治会の委託で活動を実施
・高齢者の自立支援事業　買い物移動支援ー「アッシー君」、ちょこっと支援（ゴミ出し、草刈り、網戸補修など）、よりそいネット（家事、買い物同行、相談、安否確認など）、困りごと何でも相談、安心パートナー制度（見守り活動）
・ふれあい事業
　ふれあい朝市、楽しい寺子屋、健康麻雀クラブ、ダンディサロンなど
4. ヤングの会、里山クラブ、女性会、光寿会



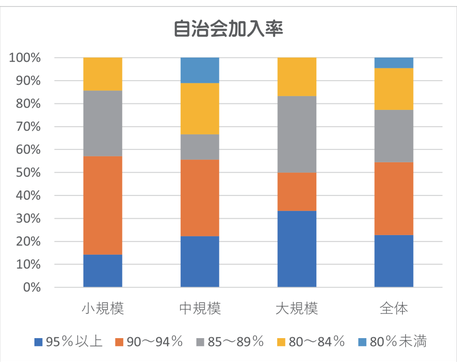
人口減少、住民の高齢化で、安心・安全な生活に支障があったり、自治会・コミュニティ活動が困難になったりしている団地もある。一方で、日常生活の不便を解消し、終の棲家（ついのすみか）となるように、ご近所との交流や文化活動、生活支援、移動支援、食事提供、サロン活動などに、活発に取り組んでいる団地もある。
しかし、それぞれの団地での状況や取り組みは、ほかの団地にはあまり伝わっていないようにおもわれる。それぞれの団地での取り組みの経験、状況を交流して、横につなげていくことによって、より効果的なまちづくりの取り組みが進むのではないだろうか。

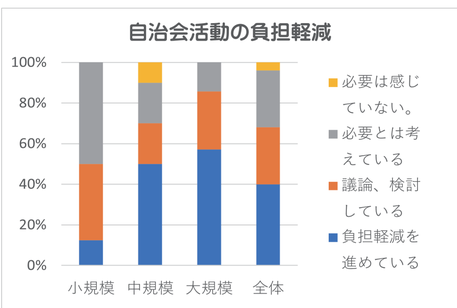
可児市団地における住民ボランティアによる足の確保の取り組み

	桜ケ丘ハイツ	帷子地区高齢者送迎サービス事業	若葉台	愛岐ケ丘
経緯、運行主体	平成 19 年アンケート調査、まちづくり協議会発足 平成 20 年移動支援の試行 平成 22 年　可児市との協同のまちづくり事業として開始 平成 25 年社会福祉協議会事業として継続	帷子地区社会福祉協議会 若葉台、長坂、鳩吹台、愛岐ヶ丘、光陽台、緑、虹ヶ丘（帷子地区全域） 行き先は病院が最も多い、あと買い物その他	高齢福祉連合会が自治会から委託を受けて、2012 年 10 月から運行。 買い物移動支援アッシーくん。 岐阜県「地域の絆づくり重点モデル事業」(2012 年度) に採択され運行車両購入	（東鉄バス・帷子線・光陽台系統、1 日 9 回。都市間高速バス） →2021 年度から、生活支援の一つとして新たに自治会支え愛の会、によって移動同行支援活動を開始した。毎週火曜日９時～１６時
利用者	会員制 65 歳以上	送迎サービス保証保険加入 (年間 2000 円)　70 歳以上	65 歳以上、利用者登録、無料パス	愛岐ケ丘自治会員で６５歳以上の高齢者、登録制
車両	乗用車 14 台、福祉車両 1 台	原則ボランティア所有の車 希望者社協所有の車 2 台	ワゴン車 1 台（自治会所有）	可児市社会福祉協議会の車両を貸与
ドライバー	ボランティア 14 名登録	ボランティア 32 名 事務局員 6 名	運転ボランティア 17 名、付き添いボランティア 19 名　計 36 名	ボランティア 14 名登録
予約システム	前日 19 時までにコーディネーターに電話	月曜～金曜、AM9-PM4、5 日前から前日まで電話予約	月曜～土曜、10-12 時、A コース、B コース、1 日 4 往復	支え愛の会ふれあいセンター電話受付。空があれば当日でも
運賃	2021 年会費は 1000 円、走行 1km あたり 25 円、団地内 100 円または 150 円	目的地までのガソリン代程度 (100 ～ 500 円)	無料 若葉台～西可児駅前スーパー・病院・銀行	事前にチケットを購入（１回１００円）帷子地区の病院・スーパー・銀行等
利用者数	会員 167 名 年間利用者 3265 人	登録 135 名 年間 3200 件	利用申込者 160 人、常連 50 名、2018 年 4734 人、一日約 17 名	登録者 28 名 年間利用者 489 人

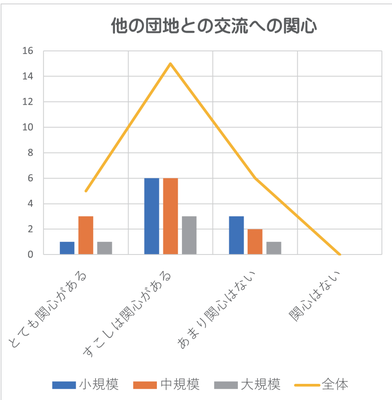
＜団地自治会アンケート調査 2023 年＞

市内全団地自治会 27 を対象

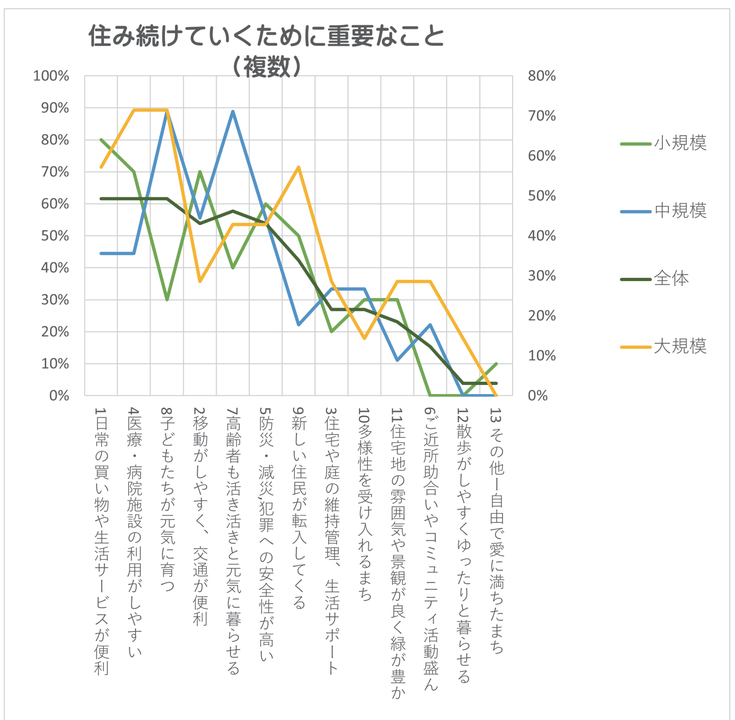
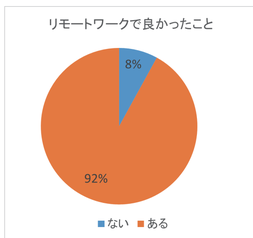
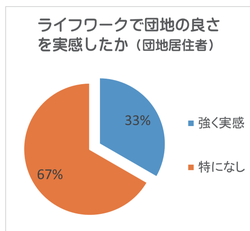
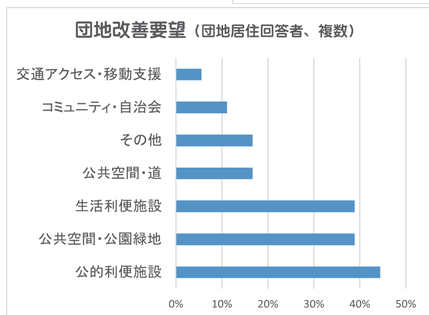




可児市全体の自治会加入率は 60%。
団地の自治会加入率は概ね 80%以上と高い。
自治会活動の負担軽減は大きな課題として取り組んでいる。
住み続けるために重要なことは団地規模によっても傾向に違いが見られる。
団地間交流への関心はある程度ある。



＜リモートワーカーアンケート調査 2021 年＞



ほとんどがリモートワークがよかったと評価し、団地の良さを実感したのも 3 分の 1。集会所などの公的利便施設、公園・緑地、生活利便施設の改善期待が多い。